



ふくしま

児童数 431名

文責 校長 柿原 敬道

- 【ふ】ふくしまの子どもは
- 【く】くり返し体をきたえる子ども
- 【し】しっかり考え、伝え合う子ども
- 【ま】まわりを思いやるやさしい子ども

さすが！福島小の6年生！

26日・27日に、修学旅行で長崎に行ってきました。60名の6年生が、団体行動やあいさつで立派な姿を見せてくれました。「深めよう友情」「守ろうルール」「学ぼう長崎」の3つの目標を立てていましたが、どれも十分に達成できていました。修学旅行で経験したことや学んだことを活かしてこれからもさらに伸びていってほしいと思います。



【出発式】



【原爆資料館】



【被爆体験の講話】



【原爆死没者名簿前で】



【昼食バイキング】



【さるくガイドさんと散策】

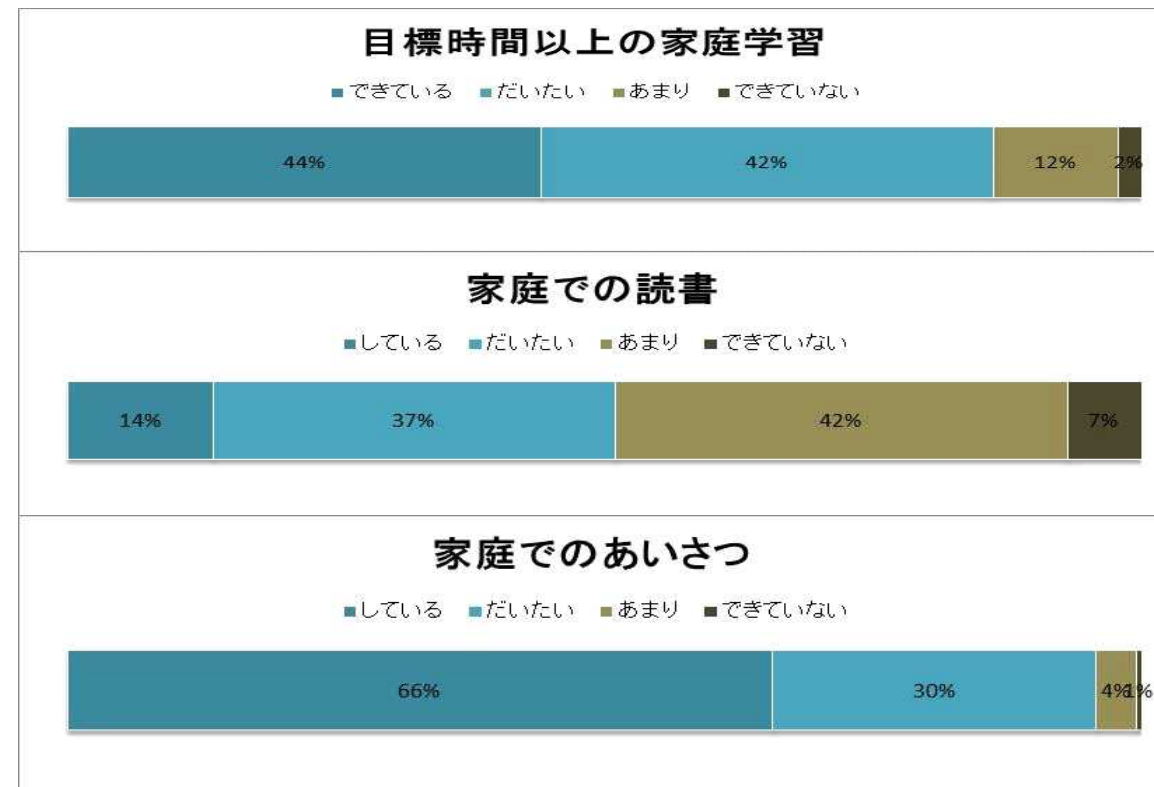
一日目は天気もよくて、チリンチリンアイスもおいしくいただくことができました。二日目は、どしゃ降りでの雨でしたが、計画にそって班



行動ができました。『雨にも負けず風にも負けず』協力し合ってやりとげました。

アンケートへのご協力ありがとうございました

9月にアンケートのお願いをしておりました。ほとんどのご家庭から回答いただきました。ご協力ありがとうございました。一部分ですが集計の結果をご紹介します。



上記の3つのグラフを比較してみると、『読書』をしている子どもが少ないことが気になります。子ども達が忙しく生活しているのだと思いますが、これから【読書の秋】と言われる季節がやってきます。読書の楽しさを味わってほしいなと思います。



タクミ君が、学校の帰り道に空を飛んでいる一反木綿（いったんもめん）を見つけます。ひらひらしているものが、タクミ君の前までおりにきます。

「布じゃないよ。皮っぽい。」

「それはだな、人間の皮だ。ほしていたら風で飛ばされてね。」

とつぜん、後ろでだれかがしゃべった。ふりむくと、理科室の人体模型がいた。人体模型はギリギリと音を立てながら、飛んできた皮を着て言った。

「ああしまった、服を忘れたぞ。」

人体模型は校長先生になって、てれくさそうに笑った。

(ダレカラキタ?の中の『ひらひら』というお話から)